

持ち出し

一週間前までに予約を行ってください。指定日までに希望液量を用意します。

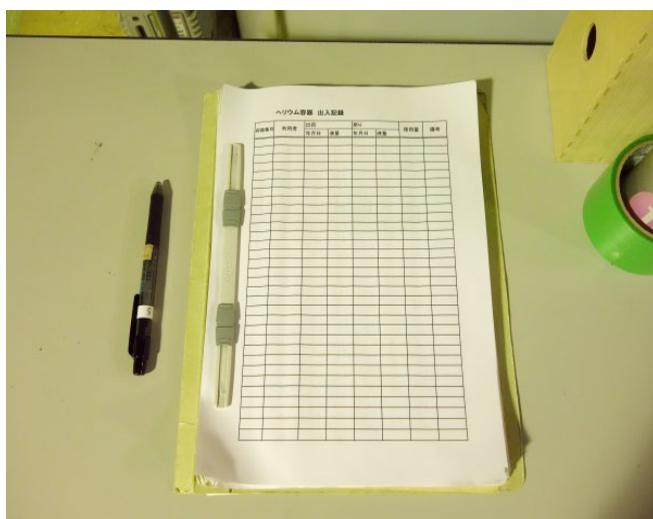
①メール、電話、口頭などで下記事項をご連絡ください。

・希望日、・液量、・容器タイプ（必要に応じて）

②予約日に極低温室へ受け取りに来てください。準備済み容器には貼紙をしておきます。



③記録簿の「出荷」欄に容器番号、研究室、日付、持ち出し液量を記入します。液量は容器付帯のノートの記録をご確認ください。当日朝に検量しておきます。



④容器を回収ホースから外して持ち出してください。脱着部分の継手（金具）は自動開閉構造となっており、つないだ時ガスが流れ、外すとガスは流れません。容器のバルブ、回収配管のバルブはともに開いたままの状態で作不要です。

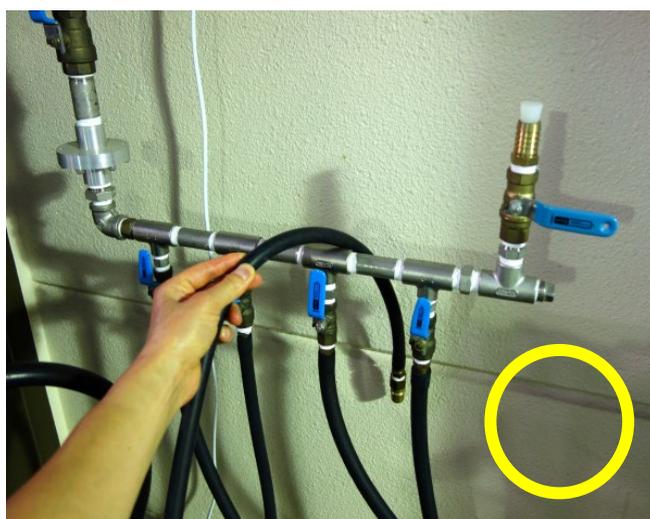


外すと流れない



つなげると流れる

⑤取り外した回収ホースは、回収管やバルブなどに引っ掛けておいてください。床には置かないでください。傷やほこりが付いてしまいます。



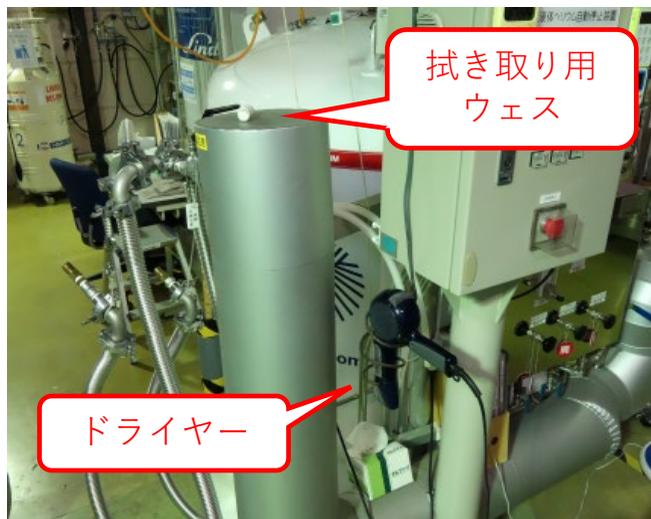
引っ掛ける



床置きはNG

返却

①運んできた返却容器の回収口が濡れていないか確かめます。使用直後で冷えて結露している時は、備え付けのドライヤーで暖めてウェス（ティッシュ）で水分を拭きとり完全に乾燥させます。濡れたまま回収ホースへつなぐと回収ガスに水蒸気が混入してしまいます。



実験室で液体ヘリウムを汲み出した直後に返却しようとする場合、回収口に低温のガスが多く流れるため冷たくなり、空気中の水蒸気が結露して濡れてしまいます。



十分に暖める



よく拭き取る

②空いている回収口に容器をつなげます。場所はどこでも結構です。継手は確実につながっているか確認します。



③つないだ容器のヘリウムガス回収経路が開通しているか確認します。



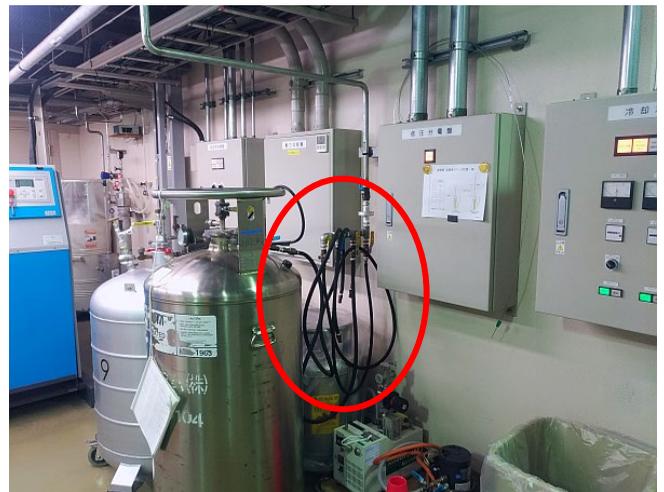
④記録簿に返却日を記入します。研究室名、容器番号から出荷時の記録を見つけて、その記録の「戻り」欄に記入してください。

※容器液量は研究室で量った場合と、極低温室で量った場合で経験上異なる傾向があります。そこで出荷時と同条件にするため、極低温室で量ることにします。検量は職員が行いますので、記録簿への液量の記入は不要（空欄でOK）です。

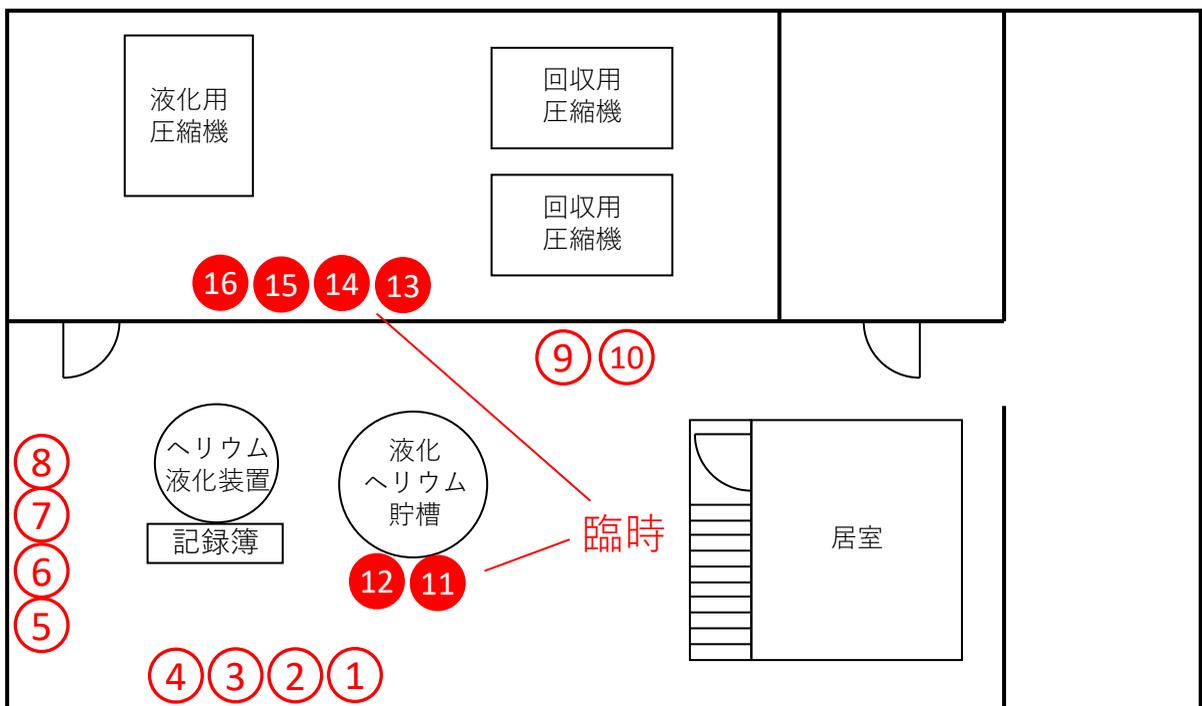
⑤すべて容器がつないであり、空いている回収口が見当たらない場合は、臨時の回収口につないてください。回収口の位置図を記録簿のすぐ上に貼ってありますのでご参考ください。



作業用のポート2口



裏の機械室のポート4口



回収口ポートの位置図